しんせい36号
平成28年3月1日発行
社会福祉法人　真盛園
大津市坂本5丁目13-1
TEL：578-0044
FAX：579-3839

しんせい

真盛園運営方針

1、人間平等の原則の上に立っての福祉の増進
2、宗教的雰囲気の中での心の安らぎ
3、恵まれた自然環境の下での健康保持

「真盛園65周年を振り返って」

常務理事兼総合園長　前阪　良憲

昭和26年（1951）**大津市立真盛養老院**として開設以来、本年で65周年を迎えることが出来ました。

社会福祉法人真盛園の歴史を辿って見ると、真盛園は天台真盛宗総本山西教寺、宗祖真盛上人（1443～1495）の御名をもって真盛園という施設名に名付けられました。出発は西教寺専門学寮の空校舎を利用しての開設。勿論教室ですから、そこに畳を引き、廊下との境目は腰高のガラス戸で、風が吹くと「ガタ」「ガタ」と音がする。冬は火鉢が暖房。隙間風が入り1部屋に6人～8人が住み、それが居室であったと聞かされました。

終戦後の生活困窮者の老人施設で全く身寄りがなく収入もなく、今日生きることも出来ない方々を援助する養老施設でありました。当時の大津市も立派な施設を建てる事が出来ず、西教寺専門学寮校舎の転用をもってやり繰りし、更に職員は大津市職員ではなく民間人を使っての運営でありました。初代園長は西教寺の庶務部長**角谷盛善氏**でありました。

その後、総本山西教寺**武田圓信宗務総長**が発起人となり、昭和31年（1956）社会福祉法人を立ち上げ、西教寺から50万円の資金援助によって、大津市立真盛養老院から**社会福祉法人真盛園養老院**と名称を変更し、西教寺が母体施設として移管されました。爾来65年目を迎えた今日、養護老人ホーム・特別養護老人ホーム等、11事業を展開しております。当時の武田圓信理事長（天台真盛宗宗務総長）の慈善的考え方と地域、行政、西教寺等の一体的な努力が今日の真盛園の歴史的な発展を物語っております。

昭和20年代は福祉施設としての理解もほど遠く、とても利用者に満足の行くものではありませんでした。食糧、衣料不足で平均家庭のレベル以下の施設をやりくりしてきた第2代目の**福永梨善園長**でありました。第3代目の**山本孝圓園長**は、老朽化した施設の改築に奔走。現在の養護老人ホーム（昭和48年道心寮新築・補助金競輪オートレース）。昭和51年、法人創立25周年記念として養護老人ホーム宝珠寮を新築（国、県、市、自転車振興会助成）など施設建設に力を注がれました。日本は高齢化が進み介護を必要とする高齢者が増え、介護施設として特別養護老人ホームの開設、建設が進みました。第4代目の**八耳哲雄園長**は特別養護老人ホーム、ショートステイを開設。文字通り福祉の先端を行く施設に日夜努力されました。まず老朽化（旧専門学校舎）施設の建て替えと共に特別養護老人ホームを開設。県下でも3番目のオープンでした。近代的な施設設備を完備致しました。養護老人ホームと2施設を運営することになり、現在の真盛園の発展の基礎を作って頂きました。

そして平成に入って日本の社会は世界に例のないピッチで高齢化が進み、在宅での高齢化対策として在宅介護支援センター、デイサービスセンターの開設に第5代目の**金剛義尚園長**が尽力されました。歴代園長が時代に即応した施設、利用者へのサービスが行き届く適切なる法人運営をして参りました。勿論、歴代の理事長、理事、監事、評議員の御協力が大きかったことは言うに及びません。

平成4年頃から長寿社会が進むにつれ痴呆（当時）（のちに認知症に改める）、徘徊高齢者を受け入れる居室が必要となり、当園も平成10年（1998）に増築し定員を115名、ショートステイ10名、計125名と定員を増加し施設を拡張しました。国（厚生労働省）に於いては平成12年（2000）度より措置から介護保険制度を導入。介護を必要とする施設として特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、グループホーム、老健施設等を開設。そして国民は40歳以上は介護保険料を納めることが義務化されました。そして、利用者は支援1．2、要介護1．2．3．4．5判定を受けることによって介護サービスが受けられることになり、判定に合格すれば誰しもが介護保険を利用できる福祉制度となりました。その制度に則って真盛園は居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、訪問看護ス

発足当時大津市立真盛養老院
（西教寺専門学寮）昭和26年時代

新築なした養護老人ホーム宝珠寮
昭和51年当時

特別養護老人ホーム
（本館戒光寮）昭和54年当時

居宅介護支援事業所 平成14年

運動会

10月29日、真盛園の前庭にて運動会が行われました。天気も崩れることがなく秋の日差しが眩しい中、無事に開催することができました。

今回は紅組と白組に分かれ、しりとりを交えた玉送りと借り物競争の2つの種目で競い合いました。しりとりを交えた玉送りでは両チーム接戦となり、最後まで目が離せない白熱した勝負になりました。

もう1つの種目は借り物競争。テーブルに置いてあるカードを取り、書いてあるものや人を探し、ゴールへ向かって走っていきました。探し物がなかなか見つからず、苦戦することもありましたが、無事探し物を見つけ、みなさんゴールされていました。人気があったのか、利用者さんが飛び入り参加をされることもありました。

運動会の後は、毎年恒例の山本そば粉様からお蕎麦をいただきました。利用者さんも職員も一緒にごちそうになり、いつもと違う雰囲気の中昼食を楽しませていただきました。

運動をした後、青空の下で食べる温かいお蕎麦は格別で、みなさん口々に「おいしい」と言われ、楽しまれた様子でした。

昼食の温かいお蕎麦

玉送りの様子

平成27年度 職員表彰者

■平成27年度　大津市社会福祉協議会

会長表彰

社会福祉法人真盛園	役員評議員	寺崎　豊好
小規模多機能型居宅介護事業所	係長	夏原　利明
居宅介護支援事業所	主任	八木さおり
特別養護老人ホーム	介護職員	夏原　一永

■平成27年度　滋賀県老人福祉施設協議会

会長表彰

調理室	係長	辻　雄介
医務室	看護師	宮本　圭子
小規模多機能型居宅介護事業所	主任	橋本　美子
デイサービスセンター	主任	新　順子
養護老人ホーム	副主任	穴見　弘子
特別養護老人ホーム	介護職員	景山　洋子
地域交流センター	コーディネーター	小倉　慶子

節分　豆まき

2月3日（水）、毎年恒例となっている節分の豆まきが行われました。

2匹の鬼に対し、「鬼は外～」と勢いよく園長が豆をまかれ、邪気を払い福を呼び込んでおられました。その光景を見ていた利用者さんからは笑顔がこぼれていました。

皆さん安心して、この1年をお過ごし下さい。

編・集・後・記

昭和26年、まだ日本は福祉とか社会保障制度についてほど遠いものでありました。西教寺は大津市に協力し、廃校になった西教寺専門学寮の校舎を昭和22年から3年間、大津市立日吉中学校に貸与。その後、昭和26年9月、大津市立真盛養老院開設に協力しました。

今ではその歴史を知っている人は何人おられるだろうか。でも西教寺にあった日吉中学校へ通学した人達はよく思い出を語って下さいます。「テニスコートがあって校舎は古ぼけていたなぁ。」と。大津市立真盛養老院の歴史を知っている人は今では少なくなりました。あれは西教寺の養老院、その時代の人達は思っていたと思う。現在、社会福祉法人真盛園は11の介護事業を運営するまでに拡大。高齢化社会に対する責任を果たしているのが母体の総本山西教寺であります。その責任は重いものがあると感じております。

（前阪良憲記）

テーション、小規模多機能型居宅介護事業所を開設。現在に至っています。

措置制度から介護保険時代となり、特別養護老人ホームは今まで市町福祉事務所に入所権限がありましたが、施設に入所権限が移譲されました。そのことにより利用者が施設を選択出来る様になりました。利用者の入所については入所判定委員会によって公平公正に判断を下さねばなりません。

また介護保険制度になって社会福祉法人は課税の問題や、内部留保問題が浮上して参りました。国会に於いて社会福祉法人制度改革法案が提出されています。その中で、社会福祉法人が社会貢献、地域支援、生活困窮者に対する事業に積極的な取り組み等がうたわれています。

ちなみに真盛園では社会貢献として平成17年（２００５）に滋賀県の御協賛を得て、「あったかほーむ事業『老いも若きも』地域交流センター」を開設致しました。昨年10周年を迎え、滋賀の縁創造実践センターから滋賀の縁（えにし）認証第1号として平成27年5月26日、滋賀県、三日月大造知事より認証書を受けました。

少子高齢化社会は地域包括支援体制が問われています。人口減少が更に輪をかけています。２０２５（平成37年）には高齢者人口は約3千5百万人に達すると推測されています。そのうち認知症の方が約３２０万人。今まで速さが問題であったが、これからは高齢化率が問題となってきます。そして平成27年（２０１５）度からは、特別養護老人ホームは要介護3以上、それに所得に応じて自己負担割合になりました。地域と社会福祉法人の連携、乃ちネットワークが要となり、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム等各施設がその役割として位置づけられてきます。老朽化した真盛園の建物を一刻も早く改築し、高齢者社会、更には社会貢献活動を果たさねばと考えています。

初代理事長と歴代園長

初代理事長 武田圓信
（昭和31年6月）

第3代目 山本孝圓
（昭和44年5月～51年9月）

第2代目 福永梨善
（昭和27年6月～44年4月）

第5代目 金剛義尚
（平成2年7月～8年7月）

第4代目 八耳哲雄
（昭和51年9月～平成2年7月）

あったかほーむ　地域交流センター「老いも若きも」「滋賀の縁（えにし）第1号に認証されました。

真盛園が運営している「老いも若きも」の施設が滋賀県などがすすめている社会の中で孤立しないよう居場所づくりの事業として「老いも若きも」第1号に指定を受けました。去る5月27日に滋賀県知事公館で三日月知事から認証書を受け取りました。

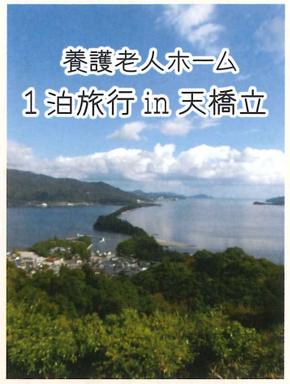
「まぐろの解体ショー」

10月25日に寿司のイベントを行いました。こしび（めじまぐろ）の解体ショーを含む毎年恒例の行事になっていますが、やはり寿司を好む方が多く、皆さん楽しみにしておられます。

会場に集まっていただいたところで魚を捌いていくと歓声とともに皆さん興味深くご覧になっていました。

そして捌いたネタを調理の職員が一斉に握っていきます。こしび、サーモン、鯛、あなご、海老、ネギトロ、いくらなど全てその場で握ったものを器にのせて提供しました。新鮮な寿司であり、こういった機会もめったにないとのことでおかわりもアッという間になくなり大好評でした。

養護老人ホーム 1泊旅行 in 天橋立



みなさん楽しみにされている、旅行の季節到来!!今年の1泊旅行は、日本三景のひとつである〝天橋立ツアー〟です。秋晴れの中、開通したばかりの京都縦貫道を爽快にドライブ!いざ、天橋立・舞鶴方面へ向かいます。

1日目は、天橋立より少し足をのばし、みなさん「見てみたい!」と希望された、〝伊根の舟屋〟で有名な伊根湾めぐり遊覧船に乗船しました。美しい海と豊かな自然、そこで暮らす人々の生活の知恵によって生まれた風景美に、みなさん大変興味を持たれている様子でした。

また、そんな利用者様を歓迎するかの様に、たくさんのカモメたちが出迎えてくれました。みなさん「かわいいなぁ～」と餌をやったり、写真を撮られたりとそれぞれ海の京都を楽しんでおられました。

さて、いよいよ本日のお宿〝ホテル北野屋〟さんに到着です。天橋立を一望できるお部屋に、みなさんびっくり!大変喜んでおられました。お楽しみのお食事では、日本海ならではの海の幸や丹後の新鮮素材を盛り込んだ贅沢な会席料理が並び、「おいしい!」「うまいなぁ!」とみなさん満面の笑顔で召し上がっておられました。

お食事の後は、お楽しみゲーム大会!ビンゴゲームでは、豪華な景品を前にみなさん大盛り上がりで、楽しい時間を過ごしました。また、美肌の湯で有名な温泉に女性陣は特に大喜びで、いつもよりゆっくりお湯につかり、体の芯までポカポカになり「お肌つるつるになったで～」「朝も入るわ。」と堪能しておられました。

2日目は、モノレールで天橋立ビューランドへ行き、待望の〝股のぞき〟をしました。「ほんまに龍にみえるわ～」「すごいなぁ～」とみなさんたっぷり景色を楽しんでおられました。その後、天橋立近辺をゆっくり散策しました。日本三文殊の1つである智恩寺をお参りしたり、有名な廻旋橋を間近で見ては「こんな大きい橋が動くんかぁ～」と興味深げに眺めたりとゆっくり観光を楽しみました。

美しい景色に、おいしい食事、今年も楽しい旅行となり、みなさん大満足で元気に帰園いたしました。

もみじ狩り

今年も少しずつもみじが色づき始め、肌寒くなってきた中、天候にも恵まれ真盛園玄関前広場にてもみじ狩りを開催しました。

養護の太鼓演奏や新人職員による発表などの出し物がありました。利用者さんも楽しそうに見ておられました。「来年ももみじ狩りに参加出来るように元気でいなあかんなぁ～」と話しながら涙ぐまれる利用者もいました。

出し物の後は、焼き芋和菓子をいただき和菓子の彩りに微笑む利用者さん。「おいしわぁ～、外で食べるのもいいねぇ～」と話され、大いに盛り上がりました。

来年も天候に恵まれもみじ狩りが出来ると良いですね。